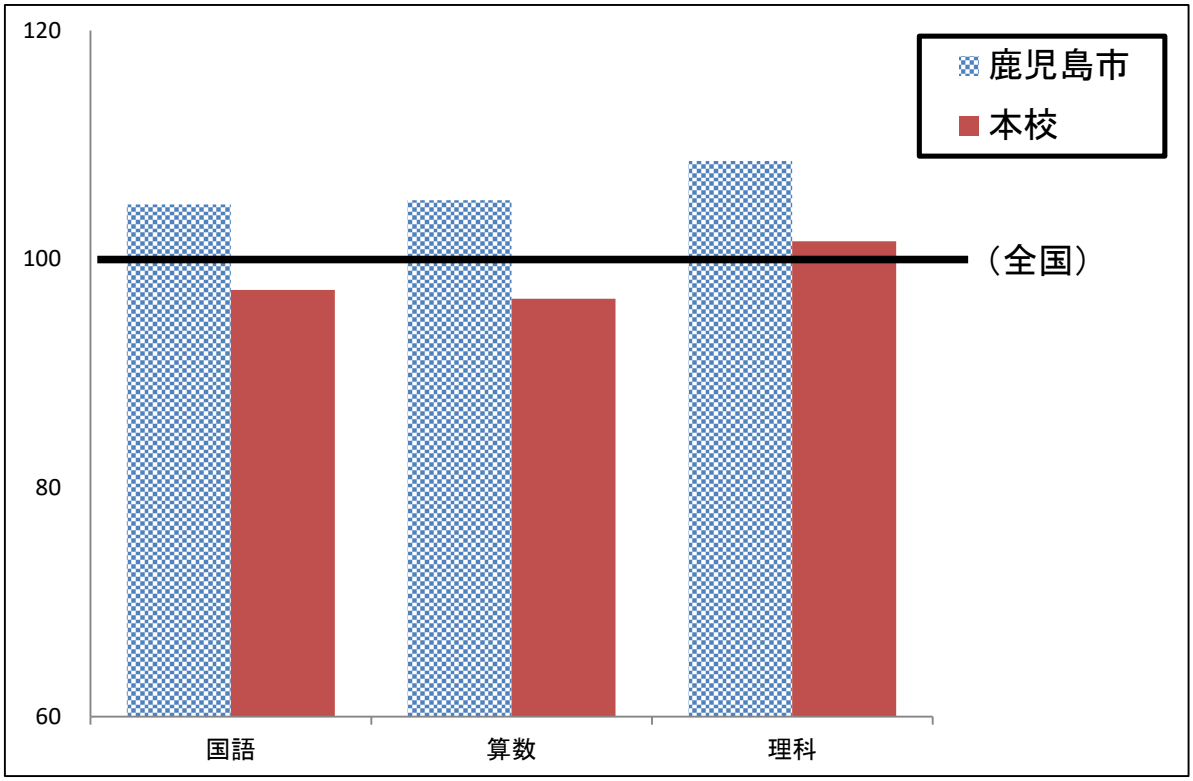
別紙（提出用）

令和7年度全国学力・学習状況調査結果について

牟礼岡小学校

1　自校・市・全国の平均正答率の比較

〈　全国平均正答率を100とする棒グラフ　〉



2　自校の課題に対する改善策

＜国語＞

我が国の言語文化に関する事項や情報の扱い方に関する事項においては、県や全国を大きく上回っています。一方、言葉の特徴や使い方に関する事項については、県や全国の正答率を10ほど下回っています。例えば、「このみ」や「あつい日」を漢字に書き直す問題です。新出漢字については、課題の出し方を工夫したり、小テストを実施して定着状況を確認したりするようにします。

＜算数＞

大きく落ち込んではいませんが、多くの領域においても平均正答率が1～2ほど下回っています。変化と関係については県・全国を上回りました。落ち込みが大きかったものとして測定の領域がありました。使いかけのハンドソープがあと何回プッシュすることができるかといった問題です。わかっていることは何で問われていることは何なのかということを意識して問題に取り組むようにさせます。

＜理科＞

正答率は、全国は上回っていますが県を下回っています。領域ごとの正答率で比較すると、1～3ほどの開きです。粒子についての問題は県や全国を上回りました。開きが大きかった領域はエネルギーを柱とする領域で、具体的には電気を通す金属について知識や電気回路の作り方を問う問題です。現在も実験や操作活動をとおして理解を深めるべく取り組んでいるところですが、目的意識や実験観察の視点を確実に押さえた指導を行うようにします。

＜全体として＞

児童質問紙の回答結果から、本校の児童は読書量や学習習慣の確率、向社会性において県や全国よりも高いことが分かりました。一方、生活習慣や自己有用感等は県や全国と比較すると低いということが分かりました。早寝・早起き・朝ごはんについて問う設問は、毎日していると全員が回答することができるよう、御家庭の御協力をお願いいたします。学校においては、一人一人に適切な役割や課題を与え、児童の行為を正当に評価して称賛する場を意図的に設定し自己有用感を育んでいきます。